

中部地方整備局のダム事業進捗等について

別表

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回事業評価時点 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減等
新丸山ダム建設事業	右岸:岐阜県加茂郡八百津町 左岸:岐阜県可児郡御嵩町	昭和55年度 ～令和11年度	約2,000(R1) 約2,000	・木曽川流域内は、名神高速道路等の高速道路、JR東海道新幹線等、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。 ・氾濫原内市町村の人口は近年大きな変化はないが、東海環状自動車道、リニア中央新幹線等の整備により、地域開発や市街化が進むことが予想される。	・平成25年11月に工事着手した付替県道井尻八百津線の工事が完了し、平成29年10月29日に供用開始。 ・平成28年9月から、転流工(仮排水トンネル)工事に着手し、平成31年1月に貫通、現在工事を継続して実施中。 ・令和3年1月に本体Ⅰ期工事の契約をしたところ。 ・令和4年3月末までに、事業費約1,227億円を投資。進捗率約61%(事業費ベース)	・引き続き、ダム本体工事及び付替国道418号の八百津町湖南地区から恵那市飯地地区間及び付替県道大西瑞浪線の道路工事を実施する。	<コスト削減> ・付替道路418号8号橋建設工事において、LCC(ライフサイクルコスト)を考慮し、一番安価なPC3径間連結コンボ橋を採用し、橋梁の費用の削減を図っている。
設楽ダム建設事業	愛知県北設楽郡設楽町	昭和53年度 ～令和16年度	約2,400(H30) 約3,200	・流域の人口(3市1町)は、約58万人であり近年横ばいとなっているが、世帯数は増加傾向にある。 ・豊川の水と温暖な気候の恵みを受け、露地野菜や果物、園芸作物などの農業が盛ん。 ・三河港周辺の臨海工業地帯では自動車産業を中心とした工業生産活動が行われている。	・平成29年3月から、転流工(仮排水トンネル)工事に着手し、平成31年3月に貫通。 ・令和2年3月より左岸頂部掘削工事に着手したところ。 ・令和4年3月末までに、事業費約1,332億円を投資。進捗率約42%(事業費ベース)	・引き続き、本体工事(基礎掘削)及び工事用道路工事、付替道路工事を実施する。	<コスト削減> ・森林資源の有効活用として、伐採により発生する枝葉や根株をウッドチップ化し、木質バイオマスとして発電に活用する取り組みにより処理コストの削減を図っている。
三峰川総合開発事業 (美和ダム再開発)	長野県伊那市	昭和62年度 ～令和5年度	約523(H29) 約543(R2)	・この地域にリニア中央新幹線が開業する予定で、人口の増加や産業・観光の発展に期待が寄せられている。 ・三峰川、天竜川上流の氾濫により浸水の恐れのある区域を含む3市3町4村の人口は、ほぼ横ばいの傾向。	・平成17年に土砂バイパス施設及び堆砂掘削が完了。 ・令和元年5月には利水容量の一部振替が完了。 ・平成27年から整備に着手し、令和3年3月に施設が概成。令和3年6月より試験運用を開始。 ・令和4年3月末までに、事業費約532億円を投資。進捗率約98%(事業費ベース)	・引き続き、「ストックヤード施設」の試験運用、落石対策工事を実施する。	<試行的取り組み> ・ストックヤードへの土砂投入について、試行的にバックホウ掘削による投入方法に変更し実施した。試験運用期間中、当初設計を含めて実施可能な土砂投入方法について幅広くコスト削減を図っていく。
天竜川ダム再編事業	右岸:愛知県北設楽郡豊根村 左岸:静岡県浜松市天竜区佐久間町	平成16年度 ～令和13年度	約790(H27) 約790(R2)	・沿川市町村の人口は近年横ばい傾向であり大きな変化はない。 ・流域内は、東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線、さらに平成24年4月から新東名高速道路が開通、また平成26年10月には中央新幹線の工事実施計画が認可され新たな交通網の整備も進むなど、国土の基幹をなす交通の要衝。 ・こうした状況のもと、浜松市並びにその周辺地域は、自動車産業、オートバイ産業、楽器産業が盛んである。	・恒久堆砂対策として、浚渫船にて掘削した土砂をベルトコンベアで佐久間ダムの下まで運び、出水時に土砂を下流河川に流出させる工法について令和2年2月決定し、置土の流出状況調査結果等を踏まえ堆砂対策施設設計等を進めているところ。 ・また、治水対策施設や地すべり対策等についても、地質調査や現場条件等の把握により設計・精査を進めているところ。 ・令和4年3月末までに、事業費約151億円を投資。進捗率約19%(事業費ベース)	・引き続き、治水対策及び堆砂施設の調査・設計、工事用進入路の整備を実施する。	<コスト削減> ・ダム下流進入路工事の工法にて、斜面の一部に対しては法面対策工事に一般的な落石防護網と落石予防工ではなく、高エネルギー吸収網を行うことで施工費用の削減を図っている。